

「日本の音楽でつながろう」 ～日本の音階を生かして～

1. 学年・組 4年東組 36名

2. 目指す子供の姿

友達と意見交流をしながら、学習内容に向き合う中で、自分の中に起こった気づきをもとに、もっと深く考えたいと思うことを通して、表現することの楽しさを実感している子供

3. 本時における「子供とつくる学び」

4年生の子供たちは、本題材に取り組む前に、リズムに着目した音楽づくりとして、リズムアンサンブルを学習している。その学習では、決まったリズムを使い、音楽の仕組みを取り入れてつくるといった条件の中で、言葉や構成を自由に発想し、ペアで協働して表現したり、友達のつくった音楽に興味深く鑑賞したりするなど、楽しんで活動することができた。本題材では、旋律を中心にした音楽づくりを学習するにあたって、友達と協働して音楽をつくる活動を継続させながら、ICTを活用して、更に音楽づくりへの興味・関心を高めたい。子供同士の協働の時間を確保し、教師との対話も含めて自分の考えを広げ深める対話的な学びを目指す。本題材では、子供の創作に対する興味・関心を高めるために、応用として、つくった旋律に和楽器の音を重ねる活動を行う。アプリ内の豊富にある和楽器の数々は、子供たちの創作意欲を湧き立たせ、子供の豊かな発想を表現に生かすことができると考える。本時の学習では、子供たちの「やりたい！つくってみたい！」を大切にしたい個別最適で協働的な学びが実現できることを期待して実践する。

4. 「子供とつくる学び」を実現するための手立て

この題材に取り組むにあたり、手立てを2つ設定した。①この音楽づくりで最終的にどんな音楽ができるのか、つくる時の条件やどのような方法でつくるのかを明確にして、学習の内容を具体的にイメージさせる。音楽をつくる際に、条件により限定する部分と子供の自由な発想が生かされる部分を意識することで、活動が見通され、子供自身が興味をもって積極的に学習に取り組むことができると考える。子供たちの思いや意図、豊かな発想が表現できる音楽づくりの活動にしたい。

②iOS用アプリの「Garage Band」を作曲補助ツールとして使用することで、子供の創作意欲を高める。リコーダーで音を確かめながらつくる方法もあるが、過去の実践において、発表する際に思うように音を出せない場面がみられ、達成感が十分に得られないことがあった。その点において、アプリの使用は、その課題を解決するとともに、個人や協働作業においても効率よく進めることができると考える。また、様々な楽器を選択でき、題材に適した音色を使用できる。コロナ感染症予防の点からも適していると考えられる。仕上がった音楽について、分析、評価、創造といった高次思考スキルを使い、多様な視点から子供自身の深い学びへとつなげたい。

5. 教材について

本題材では、和楽器の箏を中心に鑑賞学習を行い、箏の音色に親しみながら、三味線や三線の音色と比較鑑賞したり、それぞれの音色や音楽が生み出す雰囲気を感じ取りながら聴いたりする。鑑賞学習後に、実際に既習の曲を箏で演奏することで、箏の音色のよさや面白さを体感でき、日本の音楽に対する興味・関心を深めることが期待できる。

旋律を中心とした音楽づくりでは、日本の音階の音やリズムを制限することにより、どの子供にも日本の音楽の雰囲気を醸し出す旋律がつくりやすい。また、音や旋律の様々な組み合わせを考える活動を通して、自分のもつイメージや思いを友達と互いに伝え合い、協働しながら、まとまりのある音楽をつくり上げる楽しさが感じられる内容である。

6. 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| <p>曲想やその変化と、箏の音色と演奏の仕方との関わりに気付いている。</p> <p>箏の演奏の仕方を知り、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付けて演奏している。</p> <p>音楽の仕組みや、旋律が続く感じや終わる感じから全体の構成を考えて、日本の音階を生かしたまとまりのある音楽をつくっている。</p> | <p>日本の楽器の音色の特徴や旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことや感じ取ったことに関わりについて考え、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>音楽の仕組みによって生まれる音楽のよさや面白さを感じ取りながら、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> | <p>日本の楽器の音色の特徴を聴き取り、そのよさを味わって聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>箏の演奏の仕方や音色に興味・関心をもち、音色に気を付けて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>日本の音階に興味・関心をもち、音の動きや音の重なりを考えて、まとまりのある音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。</p> |

7. 単元計画

| 次 | 時 | 内容 |
|---|---|------------------------------------|
| 1 | 1 | 日本の楽器に親しもう。～箏、三味線、三線の音色や演奏の仕方を知る。～ |
| | 2 | 箏をひいて音色のよさや演奏の仕方を知ろう。 |
| | 3 | 箏で「さくら さくら」を演奏しよう。 |
| 2 | 4 | 日本の音階（五音音階）の音で旋律をつくろう。 |
| | 5 | ペアになって、まとまりのある旋律をつくろう。 |
| | 6 | ペアでつくった旋律に和楽器の音を重ねて音楽をつくろう。★本時 |
| | 7 | ペアでつくった音楽を聴き合い、作品の面白さを味わおう。 |

8. 本時の目標

旋律に音を重ねて、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。

【思考・判断・表現】

9. 本時の展開

児童の学習活動

指導上の留意点

1. ペアでつくった旋律を聴いて感想を発表する。

- ・最後は終わった感じがでていてまとまっているな。
- ・同じ旋律が繰り返されていて印象づけられる。
- ・音の上がり下がりが少なく、なめらかな感じだね。

前時の学習を想起させ、旋律をつくる上での条件に合っているか確認する。音楽の仕組みなど、まとまりのある音楽にするための工夫についても注目させる。

2. つくった旋律に合うように、和楽器の音を重ねて、まとまりのある音楽をつくる。

- ・私たちの旋律にはどんな楽器の音色が合うかな。
- ・太鼓の音にも強弱をつけてみようかな。

アプリの操作の仕方を確認する。旋律と重ねるとどのような音楽になるのか紹介し、具体的にイメージさせることで、児童の創作意欲を高めたい。

3. 自分がつくった音楽を紹介し合い、ペアで1つの音楽をつくる。ワークシートに工夫を記入する。

- ・旋律が繰り返される場所は、太鼓のリズムも同じものを使うとまとまる感じがしたよ。
- ・Aさんのように、旋律が伸びたところに鉦を入れると、いいアクセントになるね。

ペアでつくった旋律に合うリズムや音を個人で考えた後、ペアで紹介し合い、協働して音楽をつくっていくようにする。互いの思いを伝え合い、理解し合いながら1つの音楽をつくっていく過程を大切にする。

4. 友達の音楽を聴いて、意見を出し合う。その後ペアでつくる音楽を完成させる。

- ・ぼくたちは、色々な楽器を使って華やかな感じになりました。
- ・Cさんたちの音楽は、中間の部分のリズムが細かいから盛り上がっている感じがするね。
- ・旋律がもっと目立つように、箏の音量を上げるといいと思う。

つくった音楽を紹介し、全員で鑑賞する。友達の音楽がどのような思いや意図をもっているのか興味をもって鑑賞させる。また、自分なりの価値をもって分析、評価し、全体で交流することで、さらにまとまりのある音楽を創造しようとする意欲につなげたい。

5. 次時の活動内容を知る。

- ・他の友達の音楽はどのように仕上がったのかな。

評価：旋律に音を重ねて、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

【思考・判断・表現】